

2023年8月31日

京都府スポーツ施設懇話会 委員 各位

京都府立植物園整備計画の見直しを求める会（なからぎの森の会）

：共同代表 （ ）・（ ）・（ ）・（ ）・（ ）

京都府立植物園・京都府立大学を守るためにお力をお貸してください。

残暑厳しき折、突然にお便りをお送りし、失礼いたします。私たちは京都府による「北山エリア整備基本計画」から、京都府立植物園・京都府立大学および北山エリアの環境を守りたいと活動している地元住民の会です。

京都市左京区下鴨地域に京都府立植物園と京都府立大学があります。植物園は1924年に日本で初めての公立植物園として三井同族会などからの寄付を得て、この地に作られた京都府民の宝物です。また、府立大学も農林学校を前身とし、戦後に府立大学となり小規模ながら教育・研究を担う素晴らしい大学です。周辺には閑静な住宅地が広がっています。1963年以降、府立大学の農場跡地に、府立総合資料館（現在は京都学・歴彩館）や京都市コンサートホールなど、文化学術的な諸施設が建設されて来ました。

2020年12月に突然、京都府は600億円規模とも言われる「北山エリア整備基本計画」を府議会に公表しました。それによりますと、府立大学（学生総数2000人）の真ん中に1万人規模の「スポーツアリーナ」を建てて、旧総合資料館跡にシアターコンプレックスや、ホテルなどの商業施設を作ることなどが計画されています。そして、植物園はその周りの境界をなくして人が自由に往来できるようにし、カフェなど商業施設を作る。中央の芝生広場に野外ステージをつくり、イベントができるようにする。植物養育の中心であるバックヤードの縮小や移転も危惧されてきました。

さらに、2022年3月10日に府民に公表されたKPMG「北山エリア整備事業手法等検討業務報告書」では、府立大学の中央に巨大なアリーナが建設される計画が明示されています。そもそも、京都市の土地利用計画の用途指定では、このエリアは第2種中高層居住専用地域に指定されており、このようなイベント施設の建設は出来ないものです。このような巨大アリーナが建設されると、大学の教育・研究環境が大きく阻害され、植物園にも日照や風通し、景観などの問題が生じ、地域の生活環境、教育環境、自然環境にははかり知れない影響があると考えられます。

私たちは「北山エリアの将来を考える会」等と共に、京都府立植物園を守るために「京都府立植物園整備計画の見直しを求める会」（別称：なからぎの森の会）をつくり、計画の見直しを求めて市民・府民、全国、全世界に向けて宣伝や署名活動を行ってきました。

この2月20日に京都府・植物園は、開発計画の植物園部分については「見直し案」を公表しました。これは全国の京都府立植物園を愛する16万筆近い署名や有識者・植物園の職員の方々のお力のたまものです。

しかし、府が整備基本計画で想定する府立大学内のアリーナ計画は、学生利用を基本にという説明にもかかわらず、その規模は1万席とあまりにも巨大です。建設には時間も要し、170億円の府の試算で明らかなように、厳しい京都府の財政状況からも、採算上も無理な施設と考えています。私たちは多くの学生・教職員ともども、老朽化し耐震上も危険な府立大学体育館は、時間をかけず学生数2000人規模の大学にあった建て替えを行うことを求めています。

ところで、府民のためのスポーツの振興は求められていますが、地域スポーツのための京都府の支援は、はなはだ貧弱です。地域のスポーツクラブなどは練習会場確保に大変に苦勞もされています。私たちは巨大なアリーナを建てるのではなく、身近なスポーツ施設を整備するための支援こそ重要だと考えています。

また、国際的なスポーツ競技施設が府内に必要でしたら、府立大学の中に無理に建てるのではなく、既存施設の建て替え整備なども含めて、それらの採算性もご検討の上、府民・市民の声も十分に聴かれてご検討いただきたいと思います。

皆様方には、京都府立大学・府立植物園を守るために、この会議で有意義な検討をしていただきますように、切にお願いいたします。季節がらご自愛くださいませ。敬具

(追伸)

私たちの活動の詳細につきましてはの資料を同封いたしました。お読みいただければ、幸いです。